

## パブリックアートのルイ・フランセン氏

この3月で、妹の夫が退職し、エルミタージュのあるじも退職したことで、「ご苦労さん会」をしようとの提案を受け、義弟のお膳立てで、奥湯河原で妹夫婦と楽しいひと時を一緒に過ごしました。

近場でしたので、あちこち寄り道をしながら、呑気に出かけました。町立湯河原美術館に立ち寄ったところ、ちょうど特別企画展の最終日でした。ルイ・フランセン氏のステンドグラス、スチールアート、陶板レリーフが展示されていましたが、彼の名前を初めて聞きました。ホールには日本の陶芸の焼き物による陶板レリーフの一部があり、その名前も初めてでした。なかなか興味深いものでした。私はステンドグラスが好きなので、楽しみになり、さっそく展示室に入りました。大胆で、シャープな、現代的なデザイン、テーマを求心的に表現している構図、色彩の組み合わせの美しさは素晴らしいものでした。光が輝き、鮮やかな色彩が調和し、緊張感がありながらも静かな澄んだ作品です。大好きになりました。



東奥義塾高校礼拝堂  
祈り

その中に、オリジナルの一部分の縮小版がありました。非常に美しいので、よ〜く見ると、その作品が設置されている場所も記されていて、それがなんと、東奥義塾の礼拝堂とありました。東奥義塾はもともとは津軽の藩校「稽古館」でした。けれども津軽から多くのクリスチャンが輩出し、元藩士・本多庸一（元・青山学院院長）らによって、生まれ変わって、ミッションスクールとなった学校です。その礼拝堂の正面に、ルイ・フランセン氏のステンドグラスが十字架を真ん中にして設置されているとのこと。夫の親友が教師をし、私の弟が中学校時代に通った学校ですから、嬉しくなりました。



仙台第三法務総合庁舎  
杜の緑

フランセン氏はベルギー出身の芸術家であり、また、カトリック司祭で、宣教師として1957年に来日されました。教会の装飾に関われ、ヨーロッパのステンドグラスを紹介してこられました。また、日本語はもちろん、文化や陶芸を学ばれ、東京芸術大学でも教えられるようになりました。ステンドグラスや陶板レリーフのパブリックアートを、各地の公共の建物や場所に発表しております。彼の作品の写真パネルもあり、いろいろなカトリック教会の祭壇や、礼拝堂、公共のホールなどに彼の大きな作品が用いられています。



みなとみらい線・新高島駅 Deep Sea Dreams

横浜市内でもルイ・フランセン氏の作品を見ることが出来るようで、とても楽しみです。新高島駅の作品(左の写真)も彼のものです。市営地下鉄・立場駅にもあるとのこと。フランセン氏は日本の様々な分野の芸術作品をモチーフにパブリックアート制作に取り組み、日本人芸術家に多大な影響を与えられたそうです。ガラスや陶板製造工房もあり、多くのアーティストが作品を作っています。フランセン氏は日本女性と結婚、日本国籍を取得し、2010年に亡くなりました。